

2023年2月21日(火)  
東京財団政策研究所  
CSR研究プロジェクトシンポジウム

カーボンニュートラルにおける  
企業の社会貢献  
～再エネ普及と企業・地域の取り組み～



篠健司  
ブランド・レスポンシビリティ・  
マネージャー  
パタゴニア日本支社  
環境社会部門

patagonia®

本日はお話しする内容:

00 - パタゴニア社について

01 - ミッション&コアバリュー

02 - 気候危機はビジネス課題

03 - 3つの大きなマイルストーン

04 - 再生可能エネルギーへの公正な移行を支援

05 - なぜ、ソーラーシェアリングなのか?

06 - 気候変動を減速させるために自然を保護する

## 00 - パタゴニア社について

【本社】米国カリフォルニア州(1973年設立)

【創業者】イヴォン・シュイナード

【CEO】ライアン・ゲラート

【日本支社】神奈川県横浜市(1988年設立)

【支社長】マーティン・ポンフリー

【事業内容】機能的なアウトドア用品の製造・販売。  
1985年から売上の1%を自然環境の保護・回復に取り組む非営利団体に寄付。



## 01 – ミッション & コアバリュー

私たちは、  
故郷である地球を  
救うためにビジネ  
スを営む。

最高の製品を作る。

不必要な悪影響を最小限  
に抑える。

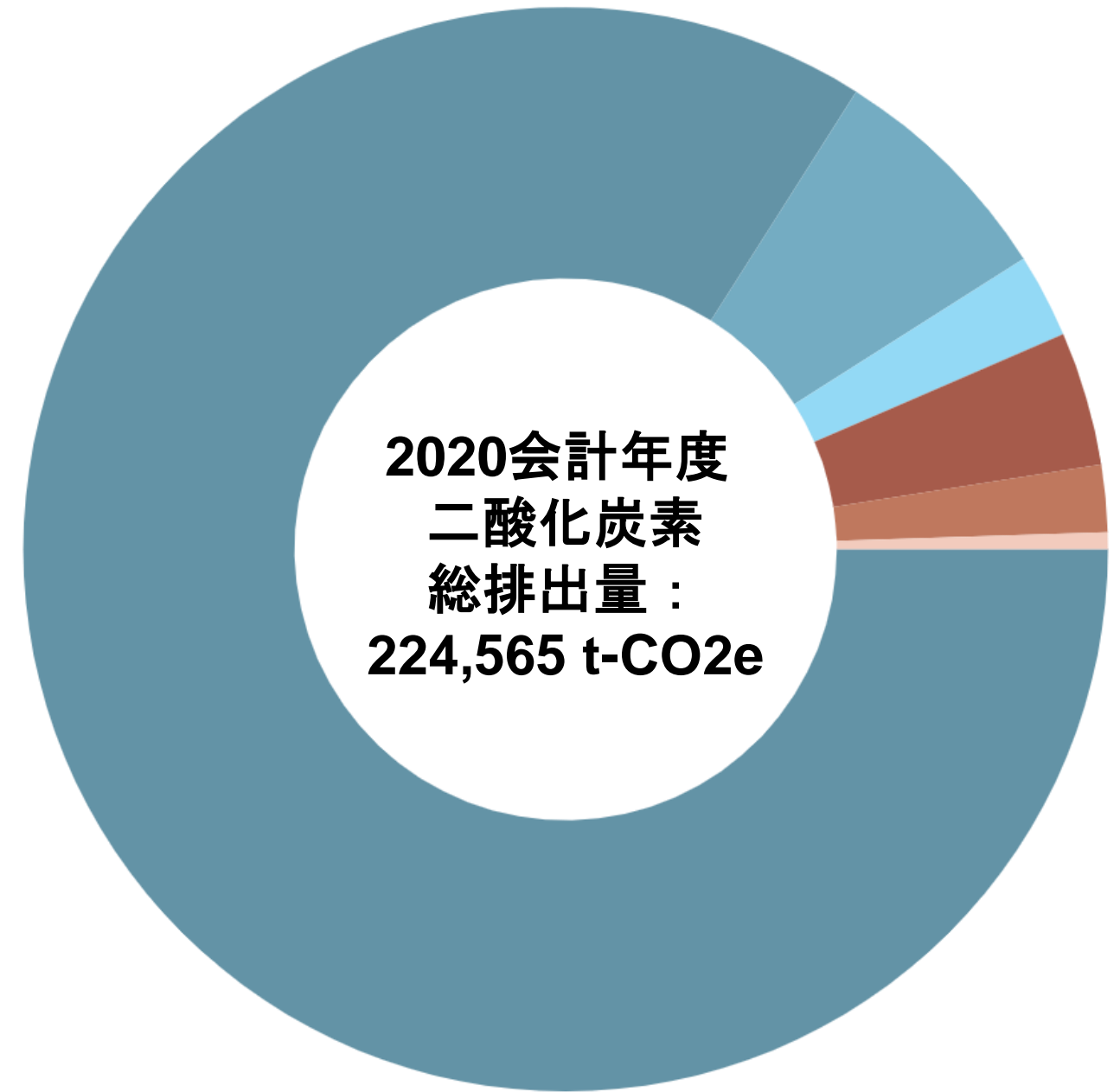
ビジネスを手段に自然を  
保護する。

従来のやり方にとらわれ  
ない。



## 02 – 気候危機はビジネス課題

パタゴニアの企業としての  
の総二酸化炭素排出量  
の95%はサプライ  
チェーンおよび素材の  
製造に起因しています。



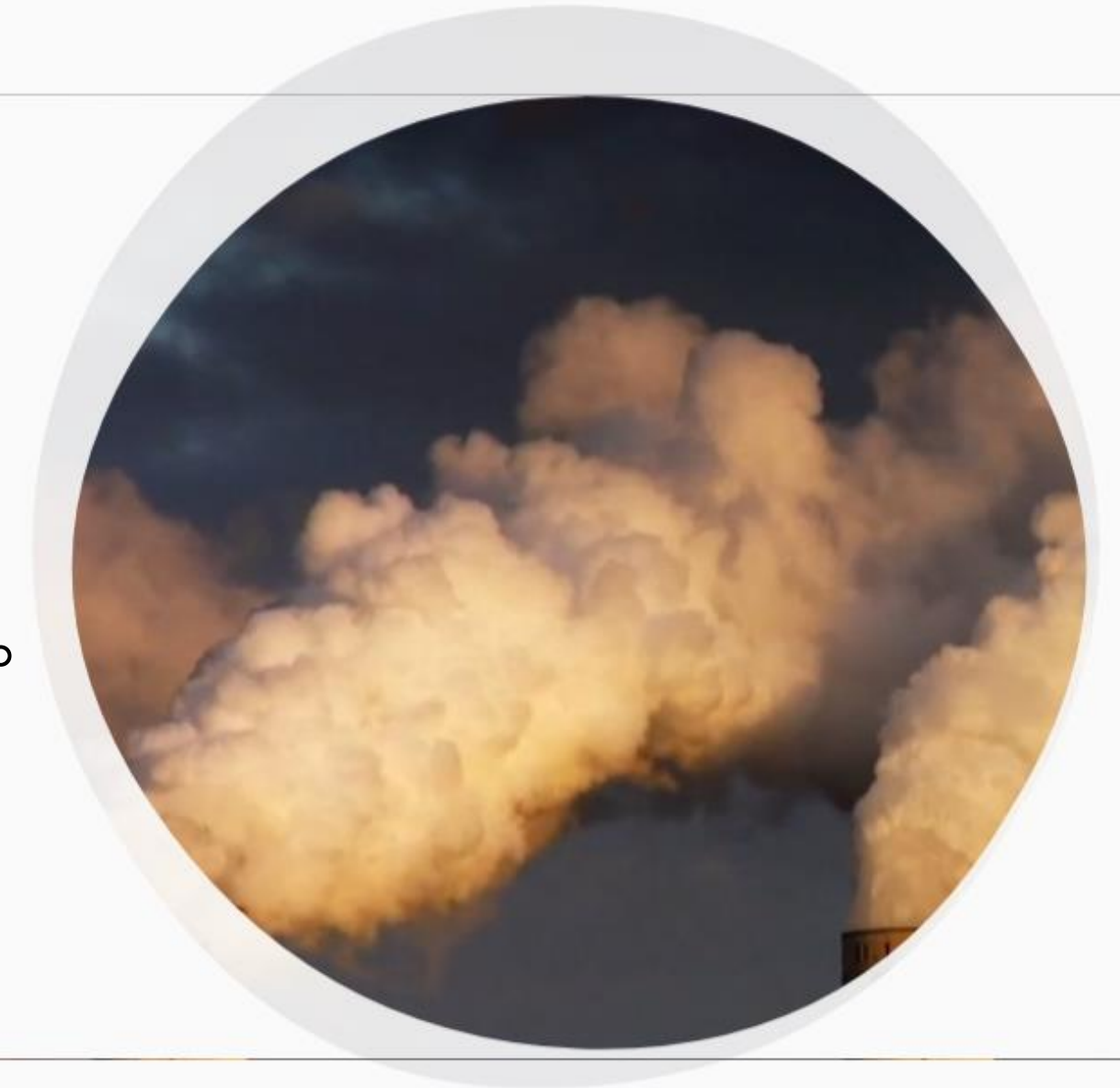
## 02 – 気候危機はビジネス課題

気候危機は人類の存続を脅かす脅威であり、パタゴニアのビジネスの全ての部分に関係しています。

私たちは製品を製造する方法を根本的に変えることによって二酸化炭素の排出を劇的に削減する必要があります。

**「地球温暖化の「症状」に浪費するのではなく、「原因」に対してできることに金を使いたい。」**

**イヴォン・シュイナード／パタゴニア社創業者**



## 03 – パタゴニアが取り組む3つの大きなマイルストーン

2025年までに石油を原料とするバージン繊維をパタゴニア製品から排除し、環境に望ましい素材のみを使用する。

2025年までにパタゴニアのパッケージすべてを、再利用可能なもの、家庭内コンポストで分解できるもの、再生可能なもの、容易にリサイクルできるもの、にします。

2040年までにパタゴニアのビジネス全体においてネットゼロを達成する。

## 03 – パタゴニアが取り組む3つの大きなマイルストーン

### 私たちの炭素削減方法





## 03 – パタゴニアが取り組む3つの大きなマイルストーン

### 自らのビジネスを変えるだけでは不十分





## 04 – 再生可能エネルギーへの公正な移行を支援。

### STEP

- 1) 運営効率の向上
- 2) エネルギー・プロバイダーの変更
- 3) コミュニティ発電への投資。

- ✓ 各国で異なる再生可能エネルギーの調達手法や経済的機会、障害、および潜在的な投資の機会、プロジェクトのパートナーについてレビュー。
- ✓ 再生可能エネルギー・プロジェクトへの投資にあたっては、各リージョンのパタゴニアのエネルギー使用量をオフセットするために、各国支社やサプライヤーと協力。

### コミュニティ発電への投資

自社の炭素排出量を削減、あるいはゼロにするだけでは不十分であり、ビジネスソリューションやコミュニティ主導のソリューションを推進するために、ビジネス全体を視野に入れたアプローチをとる。





## 05 - なぜ、ソーラーシェアリングなのか？

2016年12月、長嶋彬氏の実証試験場、2017年1月に匝瑳市を訪問し、パタゴニアの再生可能エネルギー指針に適合していることを認識。

- クリーンな再生可能エネルギーの生成に加え、有機農業の推進など、二次的に地域社会または環境面におけるベネフィットをもたらす。
- 森林伐採など新たな立地開発を伴わないため、地域社会および生態系に対する影響が最小限に抑制できる。
- パタゴニアが所有、運営する拠点（店舗、オフィス、等）に近い立地を選定することで、従業員が営農体験などのプロジェクトに参加することが可能。
- 追加性のある新規プロジェクトへの参加によって、化石燃料を代替する可能性がある。
- 発電した電気を自社施設で使用することで、再生可能な電力100%でまかなうという目標に寄与する。





# 05 - なぜ、ソーラーシェアリングなのか？

## 投資先のプロジェクト

### 千葉県匝瑳市

- パートナー: 市民エネルギーちば(株)、匝瑳ソーラーシェアリング合同会社、農業法人Three Little Birds
- 設備容量: 410KW (50KW + 360KW)
- 稼動開始: 2019年1月 (50KW)、同年12月 (360KW)
- 契約小売電力事業者: みんな電力株式会社
- 使用施設: 関東エリアの店舗、オフィス
- 耕作作物: 大豆、麦



### 兵庫県豊岡市

- パートナー: (株)坪口農事未来研究所、但馬米穀(株)
- 設備容量: 269kw (4発電所合計)
- 年間発電量概算: 約280,000 kWh
- 稼動開始: 2020年4月
- 契約小売電力事業者: みんな電力株式会社
- 使用施設: 関西エリアの店舗、オフィス
- 耕作作物: 水稲、野菜、果樹、育苗





## 06 – 気候変動を減速させるために自然を保護する

# 土壌が解決策

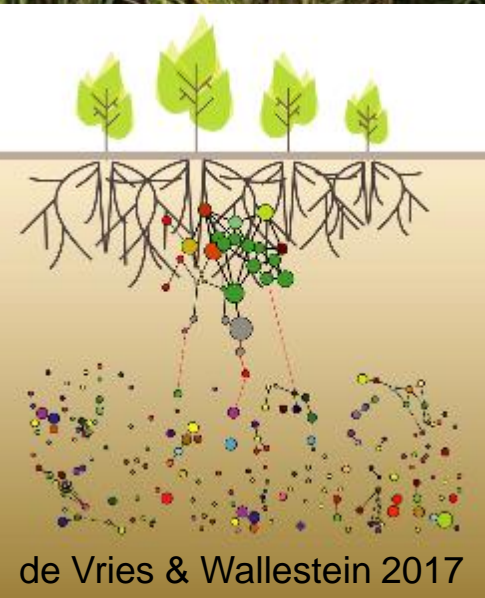
健全な土壌は炭素を捕捉します。リジェネラティブ・オーガニック農法には、私たちが食物や繊維を育てる方法を変え、土壌や気候の健康を修復させる可能性があるかと、私たちは信じています。



# 06 – 気候変動を減速させるために自然を保護する

CO<sub>2</sub>

CO<sub>2</sub>



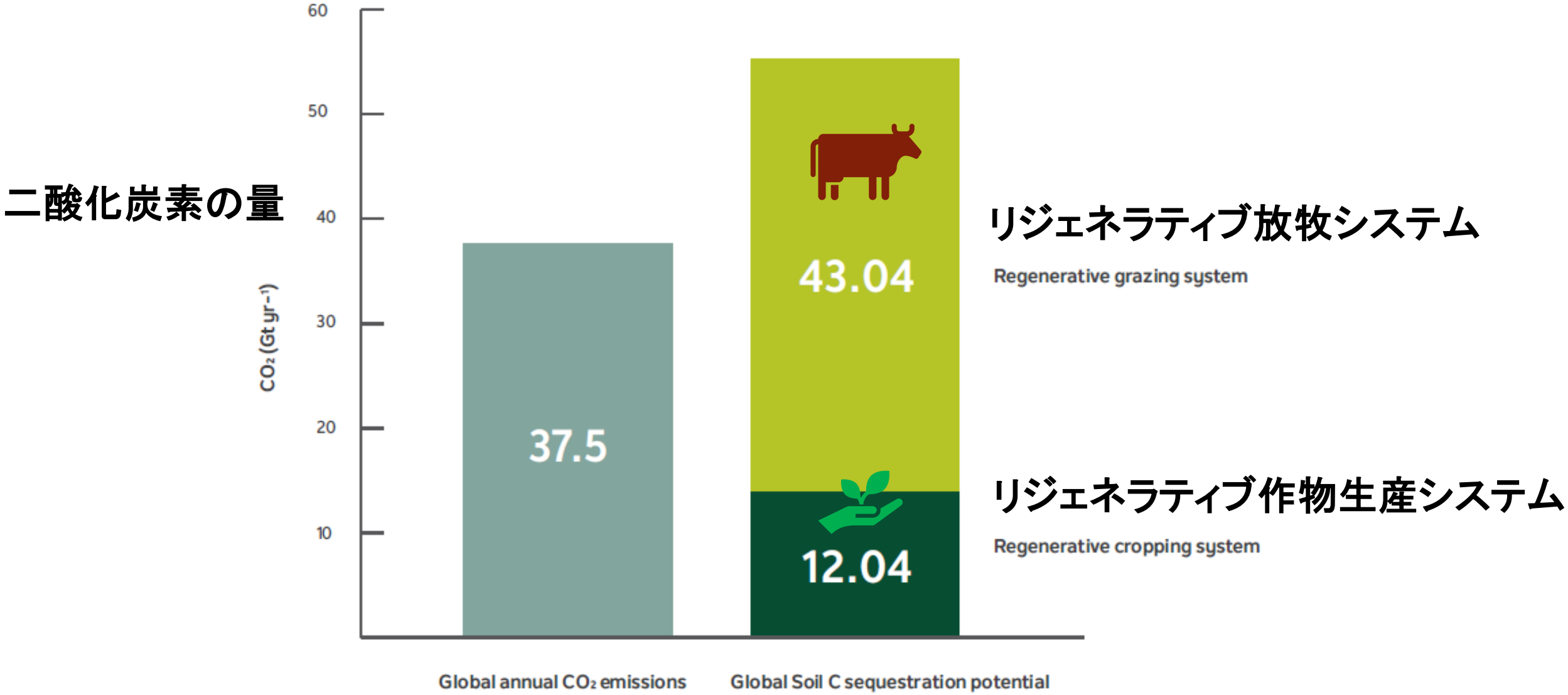
## リジェネラティブ・オーガニック農法

大気中の炭素を、土壤に有機物として埋め戻し、貯め込む  
= 気候変動の緩和策になる



# 06 – 気候変動を減速させるために自然を保護する

## リジェネラティブ・オーガニック農法を世界中で採用した際の炭素隔離ポテンシャル





私たちにできる最善策は、リジェネラティブ農業の支援だという結論に達した。地球温暖化の問題を間違いなく解決できる方法はそれ以外思いつかない。

リジェネラティブ農業では、栄養価の高いおいしい食物を栽培できる。そのうえ表土を育て、炭素を蓄える。つまり一石二鳥どころか、一石四鳥。これはまったく前向きな解決策で、いちばん期待できる。

イヴォン・シュイナード  
パタゴニア社創業者

## なぜ、自然酒なのか？

パタゴニア プロビジョンズの自然酒は、  
環境を修復する農法で生産され、  
人工的な介入を最小限に抑えて  
醸造、瓶詰めされています。

1673年から続く寺田本家が醸造した  
プロビジョンズオリジナル自然酒  
「繁土(ハンド)」。

農薬・化学肥料を使わずに育てられた  
地元産の美山錦(麴米)と  
兵庫県豊岡市の坪口農事未来研究所  
の「コウトリ育む農法」による  
コシヒカリ(掛け米)を使用。  
直培養した蔵付き麴菌、  
湧き水を使って醸造しています





# パタゴニアの次章： 「地球が私たちの 唯一の株主」

次の50年に向けたスタート  
「株式公開に進む (Going public)」  
のではなく  
「目的に進む (Going purpose)」

patagonia®

